

沖縄キリスト教学院大学自己点検・評価・改善委員会
(編・著)

2010年度 前期

学生による授業評価報告書

巻頭言

第1章 授業評価の概要

第2章 科目・クラス別評価

第3章 自由記述による授業評価

沖縄キリスト教学院大学

2010

Introduction to the term end questionnaire results

Randolph H. Thrasher, President

As I have noted in previous years, the data reported here shows the students assessment of the overall performance of our school. However, because it groups how the students evaluate many different individual teachers and combines data from all sorts of classes, there is some fuzziness in the picture presented here. If we look at the data in the first table we can see that for three of the questions, the standard deviation was over one. The results from questions 12 and 17 indicate that students had somewhat mixed opinions of the performance of different teachers. Although most students expressed a willingness to take other classes taught by that teacher (Question 17) the large standard deviation shows that the students didn't think this was true of all teachers or that all students in each class didn't have the same opinion of that teacher. The same can be said of question 12. Most teachers followed the syllabus but the students claimed that not all did.

Question 15, as in previous years, shows that there is a great difference in the amount of homework students do. Teachers are apparently assigning more homework (the mean is higher than in previous years) but there seems to be great differences in student responses to these assignments (the standard deviation remains high).

The standard deviation for question 4 is relatively high. This is a pattern we have seen in previous years and may show that not all students are able to follow the presentation of their teachers.

The overall results are quite positive (all means are 4 or higher) and show that the students are largely satisfied with the education we provide. However there is room for improvement in making our lectures understandable to all of our students and in teaching in a way that make students want to take more courses from us. And we need to find ways to close the gap between those students who take time to do the assignments we give and those who spend very little time doing homework.

I'm happy to see the improvement these data show, but I know that we can do better and I urge all teachers to reflect on the data for their classes and work together to provide even a better education for our students.

巻頭言

2010年度前期・学生による授業評価

沖縄キリスト教学院大学

学長 Randolph H. Thrasher

昨年同様、ここに報告するデータは、本学における教育活動全般に渡っての学生による評価です。あらゆる分野の先生方を評価したり、全クラスのデータをひとまとめにした為、評価結果が不鮮明になったものもあることは否めません。最初の表は、はじめの3つの質問が標準偏差値を越えていることを示しています。質問12と17は、教師の教え方（教授法）に対し異なる意見がある事を示しています。ほとんどの学生は、受講中の教師の別の授業も受けた（質問17）と意思表示をしています。標準偏差値が大きいのは、全ての教師が該当するのでは無い事を意味します。クラスの全学生が、同一教師について同じ意見を持っているのでは無い事を示しています。同じことが質問12についても言えます。ほとんどの教師はシラバスに沿った授業をしています。全ての教師についてはそうは言えないと、学生は批判しています。

質問15は、昨年同様、宿題の量の差を示しています。教師は明らかに昨年以上の宿題を課しています（平均値が前年度より高い）が、学生の反応には大きな違いがあります（標準偏差値が高い）。

質問4の標準偏差値は、比較的高くなっています。前年と同じパターンで、おそらく、全学生が教師のプレゼンテーションについていけない事を示していると思われます。

評価結果は、全体的に見て良好（平均値は全て4、あるいはそれ以上）であり、学生は本学が提供する教育におおむね満足していると言えます。しかし、全学生にとって授業がもっと分かり易くなる工夫や、学生が我々からもっと多くの授業を受けたいと思えるように教授法を改善する余地があります。また、我々は、学生が宿題にかかる時間差を縮めるよう何らかの方法を見出す必要があります。

今回のデータには、本学の教育活動の改善が見られ、喜ばしい限りです。しかし、我々はもっと良い教育活動が出来るはずです。全教師が、これらのデータをそれぞれの授業に反映させ、より良い教育を学生へ提供するよう互いに協力し合うことを奨励します。

沖縄キリスト教学院大学
自己点検・評価・改善委員会委員
(2010年度 前期)

Randolph H. Thrasher (委員長・学長)
山 里 恵 子 (委員・人文学部長)
金 永 秀 (委員・宗教部長)
山 城 眞紀子 (委員・教学部長)
上 原 明 子 (委員・入試部長)
高 崎 正 名 (委員・キャリア開発部長)
内 間 清 晴 (委員・図書館長)
伊 佐 雅 子 (委員・英語コミュニケーション学科長)
与那覇 明 弘 (委員・事務局長)

沖縄キリスト教学院大学
2010年度前期
学生による授業評価報告書

第1章

学生による授業評価概要

はじめに

2010年年7月に、学生による授業評価アンケートを実施した。すべての開講科目クラスを対象とした。

全78科目、123クラスについて分析した。分析に投与された評価票は3345件であった。評価は5段階法を採用しており、1点が最低点、5点が最高点の5段階評価となっている。「1」～「5」を1点～5点に換算し、全データーを一括して設問項目ごとに、平均値、標準偏差などの基本統計量を算出した。ついで評価段階ごとの人数の分布を調べた。結果は以下の表およびグラフに掲げた通りである。表中に欠損値（システム欠損値）とあるのは無回答者の数である。

1 学生による授業評価の概要

以下に、設問毎の平均値等の基本統計量を掲げる。

記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	3337	1	5	4.60	.685
Q2成績評価方法	3340	1	5	4.54	.746
Q3先生の熱意	3340	1	5	4.69	.631
Q4わかりやすい	3340	1	5	4.36	.948
Q5準備よい	3338	1	5	4.59	.715
Q6理解興味の工夫	3342	1	5	4.45	.866
Q7時間どおり	3342	1	5	4.62	.737
Q8質問の機会	3338	1	5	4.52	.812
Q9授業妨害へ対処	3333	1	5	4.43	.840
Q10薦めたい	3342	1	5	4.40	.915
Q11熱意を持って参加	3340	1	5	4.38	.853
Q12シラバス参考	3334	1	5	4.00	1.140
Q13授業を中座しない	3339	1	5	4.45	.827
Q14遅刻欠席ない	3327	1	5	4.31	.956
Q15予習復習時間	3190	1	5	2.28	1.162
Q16全体的評価	3227	1	5	4.24	.930
Q17別の科目も受講したい	3209	1	5	4.31	1.019
有効なケースの数（リストごと）	2969				

全17項目中、16項目で4以上の結果である。これらの項目について、本学の授業は一応及第ということであろう。

「4」に満たなかった項目は、「予習復習時間」であった。全般的には良好な授業が展開されているのに、学生があまり「勉強」をしていない、状況である。

評価の散らばりの大きかった（1.000以上）、すなわち評価の個人差が大きい項目は、「シラバス参考」「予習復習時間」「別の科目も受講したい」であった。いずれも学生要因であり、学生の自己評価である。これら3項目については評価にばらつきが認められる。

2 評価段階ごとの分析

評価ランク毎の度数分布を調べ、前節の結果分析をより精密に検討する。比率の表記は少数点第一位を四捨五入した形で示す。また、欠損値を除いた有効パーセントで示す。

Q1「授業の目的」は、「5」評価の比率が70%となり、良好である。この項目は「講義要項」のシラバスに明記されているが、確認の意味を含め、シラバスで確認するよう受講生に注意を喚起する必要があるだろう。なお、「1」および「2」評価の比率を合算すると1%ほどになる。

Q2「成績評価の方法」は、「5」評価が67%であり、まあ、良好だと考えられる。ちなみにこの「5」評価と「4」評価を合算すると89%となる。成績評価の方法については、「講義要項」のシラバスに明記されており、クラスで取り立てて説明を要しないとも考えられる。周知の徹底が必要である。「1」「2」評価を合算すると2%ほどになる。

Q3の先生の授業への熱意に対する評価は「5」段階が77%となっている。「4」評価（17%）と合算すれば93%となる。学生は教員の授業への熱意を高く評価している。

Q4「授業のわかりやすさ」については61%が「5」の評価をしている。なお、「4」、「5」評価を併せると80%ほどになる。分かりやすさの点では、かなり満足度が高いようである。ただし「1」と「2」評価を併せた比率が5%あるので、不満が若干あることには注意が必要である。とはいえ、大学の講義が「分かりやすい」ことを重点に評価することには論議が必要であろう。

Q5「準備がよい」については「5」評価の比率は約71%、「4」評価を加えると90%もの受講生が教員の授業の準備のよさを認めている。すなわち教材研究が十分に示唆されていることを示唆するものであろう。「1」と「2」を合算した比率は2%である。

Q6「理解興味の工夫」は、約64%の受講生が「5」と評価している。どのような創意工夫であるかについては第3章の「自由記述」の評価を参照されたい。「1」「2」評価を合算すると4%になる。さらなる創意工夫が期待される。

Q7講義が「時間通りに始まり、時間通りに終わる」というのはごく当たり前のことと考えられる。しかしながら講義内容の「区切り」の都合で終了チャイムを無視するこ

ともまた日常茶飯事である。学生たちの評価は「5」が約74%、「4」評価が約17%である。当然の約束事として時間通りに始まり時間通りに終わることは議論の余地がない。しかし、約2%の受講生（「1」と「2」評価の合算）が不満を表明していることには気をつけなければならないだろう。

Q8「質問の機会」があるかどうかについては良好な評価である。69%の受講生が「5」の評価をしている。「4」評価と合算すれば87%である。「1」および「2」の評価を併せた比率は約3%である。

Q9「授業妨害への対処」については、教員はかなり適切な対処をしていると思われる。「5」評価の比率は62%である。ここでいう授業妨害とは授業中における私語、ケータイの着信音、メールの送受信、立ち歩き、居眠り、あるいは授業外の「内職」等がある。この評価項目は授業運営のうち「管理機能」に属する。受講生を授業に集中させるための教員の力量が試されている、と考えられる。「1」評価と「2」評価を合算すると3%になる。

Q10「薦めたい」とは、「この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するように進めたい」ということを意味する。「5」評価の比率は約63%である。「4」評価が約20%ある。「1」評価と「2」評価を合算した比率は4%を超えている。

Q11からQ15は、学生自身の自己評価項目である。

Q11は、学生自身の「授業への熱意」を自己評価したものである。59%の受講生が「5」の評価をしている。「4」評価と合算すると約83%の受講生が「熱意を持って」授業に参加していることになる。授業にあまり熱意の持てない「1」および「2」と評価した受講生の比率を合算すると4%になる。

Q12「シラバス参考にした」への「5」評価は約46%である。「4」評価が約21%なので合算して約67%となる。「1」および「2」評価の比率は11%である。シラバスの参照は計画的な学習の前提である。シラバス利用への積極的な動機付けが望まれる。

Q13「授業を中座しない」、Q14「遅刻欠席はない」、「Q15「予習復習時間」は学生自身の「受講態度の自己評価」項目となっている。

Q13「授業中中座しない」で「5」評価したものは約64%である。「4」評価が約21%ある。合算すると85%になる。「1」評価と「2」評価を合算すると3%ほどになる。一種の授業妨害に当たるであろうが、中座の理由等は本調査では詳らかにしない。

Q14「遅刻欠席はない」は58%が「5」の自己評価をしている。「1」および「2」評価を合算した比率は7%である。何らかの事情で遅刻や欠席するのはやむをえないことであろう。ここでは遅刻や欠席の回数を質問していないのでその頻度については不明である。遅刻に関しては、1時限のみでなく2限目以降にも見かけられるので、しっかりとした指導が求められる。

Q15「予習復習時間」で「5」と回答した者の比率は6%である。「5」評価とは、週当たり3時間以上の自習をすることである。1科目あたりの週当たりの予習復習時間で1番多いのは「ほとんどしない」であり(32%)、ついで「30分ぐらい」(30%)である。両者で62%。無回答者の比率が約5%ある。1時間の講義に対して前後1時間の自学自習と15週の授業で「1単位」を構成する。本学の授業時間の1時限は90分であり、これが15回行なわれて「2単位」になる。つまり週に1回の授業科目であれば少なくとも講義時間外に180分の学習が想定されている。上の結果は学習時間の極端な短さを示している。このような状況で本学の教育(講義)が展開されている。これは教育機関としての根幹に関わる深刻な事態であろう。本学は学生が「勉強する」ことの習慣を形成するという重大な挑戦を受けているといえよう。しかも喫緊の課題である。

Q16「全体的評価」については、「無回答者」の比率が約4%ある。また「わからない」が2%ある。これらを除いて算出した「5」評価が約51%である。半数が好意的な評価をしている。「4」評価は28%である。両者の合計は約79%である。不満足(「1」ないし「2」評価)なのが5%ほどある。この比率を0%にすべく努力が必要である。

Q17「この先生の別の科目も受講したい」という評価項目は、担当教員への満足感を捉えている、と考えられる。「無回答者」が4%ほどある。これを除いた集計では、約59%が「5」の評価を行い、22%が「4」の評価をしている。「1」評価と「2」評価を合算すると7%になる。これらの者は同じ教員の別の科目も受講することに積極的でない、ということである。ここではその理由を明らかにしない。自由記述であるいは「不満理由」が記載されているかもしれない。

以下、Q1からQ17について度数分布表を掲げる。

Q1授業の目的

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	5	.1	.1	.1
	2	32	1.0	1.0	1.1
	3	255	7.6	7.6	8.8
	4	725	21.7	21.7	30.5
	5	2320	69.4	69.5	100.0
	合計	3337	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	8	.2		
合計		3345	100.0		

Q2成績評価方法

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	8	.2	.2	.2
	2	49	1.5	1.5	1.7
	3	320	9.6	9.6	11.3
	4	731	21.9	21.9	33.2
	5	2232	66.7	66.8	100.0
	合計	3340	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	5	.1		
合計		3345	100.0		

Q3先生の熱意

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	6	.2	.2	.2
	2	28	.8	.8	1.0
	3	187	5.6	5.6	6.6
	4	551	16.5	16.5	23.1
	5	2568	76.8	76.9	100.0
	合計	3340	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	5	.1		
合計		3345	100.0		

Q4わかりやすい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	52	1.6	1.6	1.6
	2	120	3.6	3.6	5.1
	3	443	13.2	13.3	18.4
	4	685	20.5	20.5	38.9
	5	2040	61.0	61.1	100.0
	合計	3340	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	5	.1		
合計		3345	100.0		

Q5準備よい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	6	.2	.2	.2
	2	49	1.5	1.5	1.6
	3	266	8.0	8.0	9.6
	4	658	19.7	19.7	29.3
	5	2359	70.5	70.7	100.0
	合計	3338	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	7	.2		
合計		3345	100.0		

Q6理解興味の工夫

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	30	.9	.9	.9
	2	97	2.9	2.9	3.8
	3	369	11.0	11.0	14.8
	4	701	21.0	21.0	35.8
	5	2145	64.1	64.2	100.0
	合計	3342	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	.1		
合計		3345	100.0		

Q7時間どおり

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	15	.4	.4	.4
	2	63	1.9	1.9	2.3
	3	234	7.0	7.0	9.3
	4	559	16.7	16.7	26.1
	5	2471	73.9	73.9	100.0
	合計	3342	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	.1		
合計		3345	100.0		

Q8質問の機会

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	20	.6	.6	.6
	2	78	2.3	2.3	2.9
	3	330	9.9	9.9	12.8
	4	616	18.4	18.5	31.3
	5	2294	68.6	68.7	100.0
	合計	3338	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	7	.2		
合計		3345	100.0		

Q9授業妨害へ対処

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	19	.6	.6	.6
	2	76	2.3	2.3	2.9
	3	426	12.7	12.8	15.6
	4	755	22.6	22.7	38.3
	5	2057	61.5	61.7	100.0
	合計	3333	99.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	12	.4		
合計		3345	100.0		

Q10薦めたい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	45	1.3	1.3	1.3
	2	97	2.9	2.9	4.2
	3	435	13.0	13.0	17.3
	4	656	19.6	19.6	36.9
	5	2109	63.0	63.1	100.0
	合計	3342	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	.1		
合計		3345	100.0		

Q11熱意を持って参加

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	22	.7	.7	.7
	2	71	2.1	2.1	2.8
	3	476	14.2	14.3	17.0
	4	806	24.1	24.1	41.2
	5	1965	58.7	58.8	100.0
	合計	3340	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	5	.1		
合計		3345	100.0		

Q12シラバス参考

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	130	3.9	3.9	3.9
	2	222	6.6	6.7	10.6
	3	724	21.6	21.7	32.3
	4	710	21.2	21.3	53.6
	5	1548	46.3	46.4	100.0
	合計	3334	99.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	11	.3		
合計		3345	100.0		

Q13授業を中座しない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	13	.4	.4	.4
	2	73	2.2	2.2	2.6
	3	431	12.9	12.9	15.5
	4	701	21.0	21.0	36.5
	5	2121	63.4	63.5	100.0
	合計	3339	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	6	.2		
合計		3345	100.0		

Q14遅刻欠席ない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	35	1.0	1.1	1.1
	2	164	4.9	4.9	6.0
	3	462	13.8	13.9	19.9
	4	739	22.1	22.2	42.1
	5	1927	57.6	57.9	100.0
	合計	3327	99.5	100.0	
欠損値	システム欠損値	18	.5		
合計		3345	100.0		

Q15予習復習時間

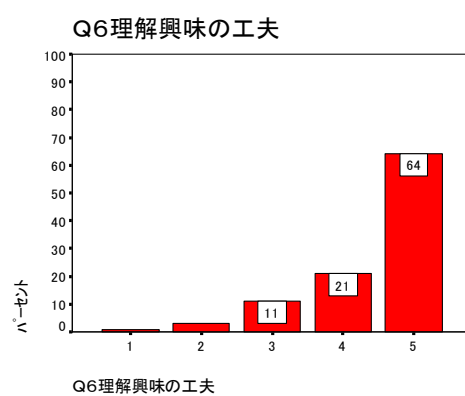
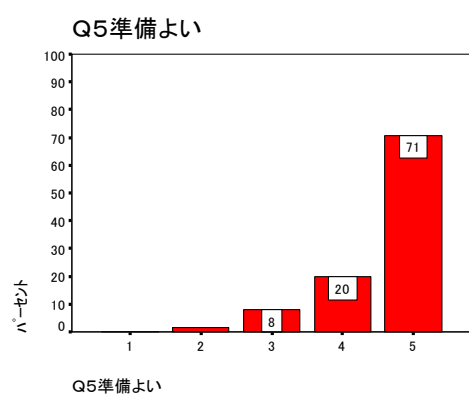
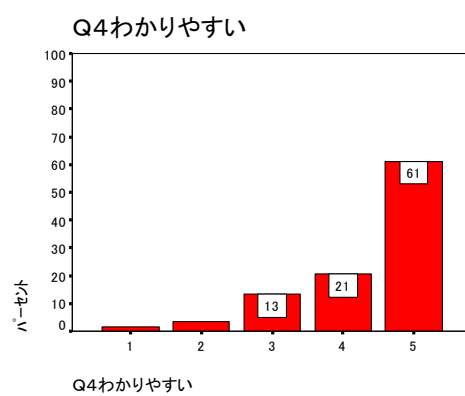
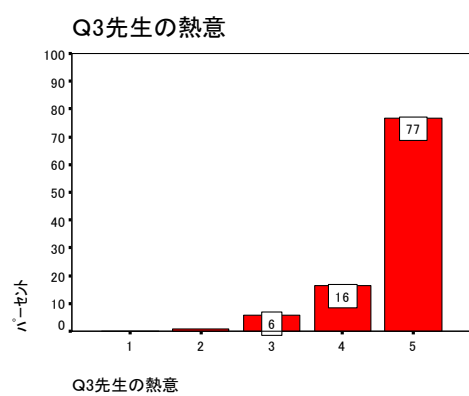
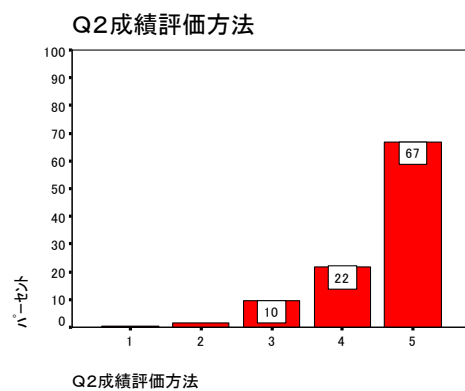
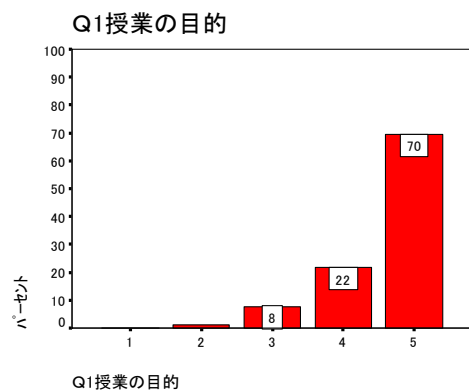
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	968	28.9	30.3	30.3
	2	1024	30.6	32.1	62.4
	3	730	21.8	22.9	85.3
	4	270	8.1	8.5	93.8
	5	198	5.9	6.2	100.0
	合計	3190	95.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	155	4.6		
合計		3345	100.0		

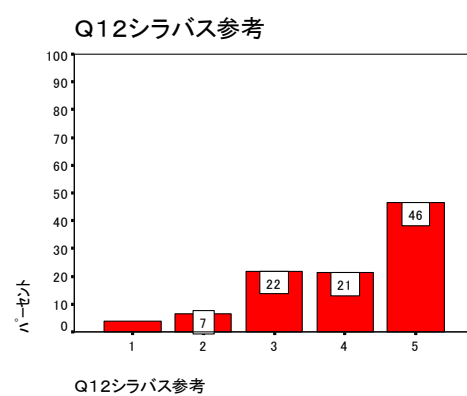
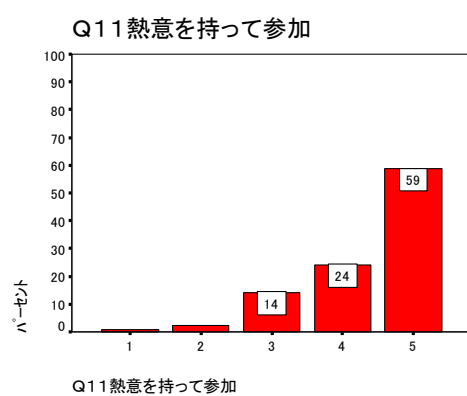
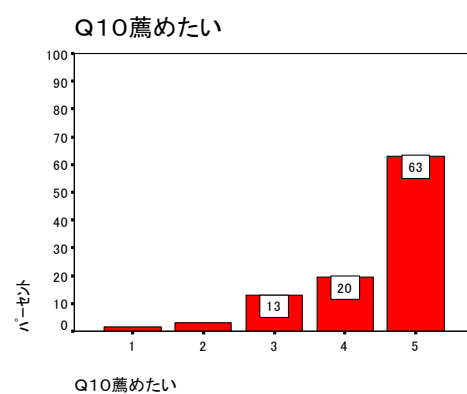
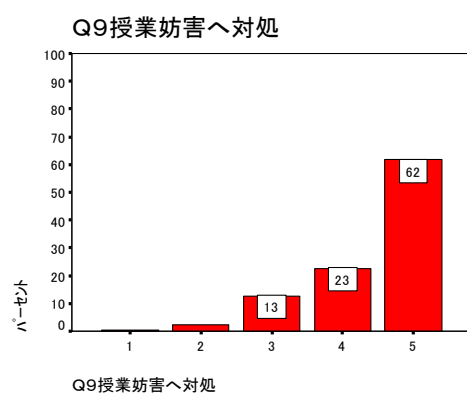
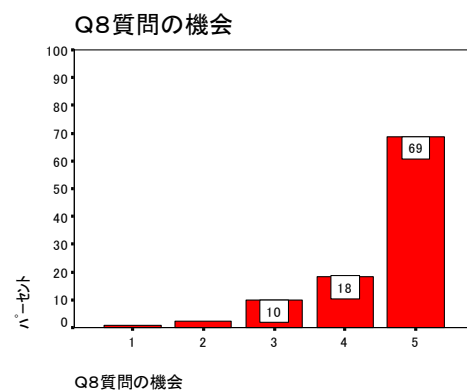
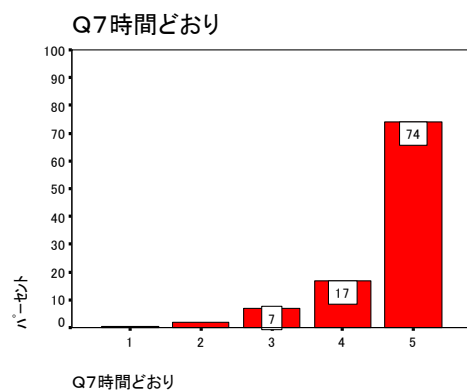
Q16全体的評価

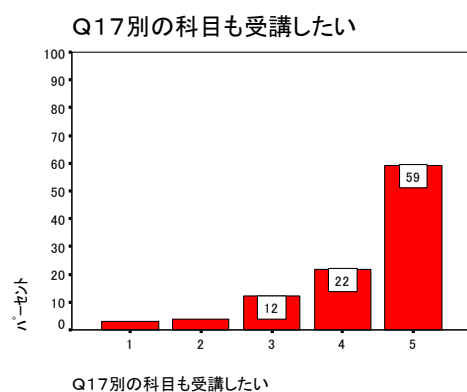
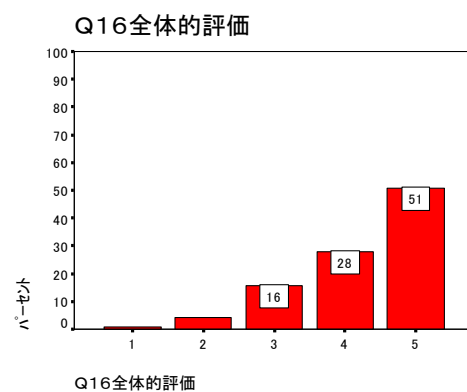
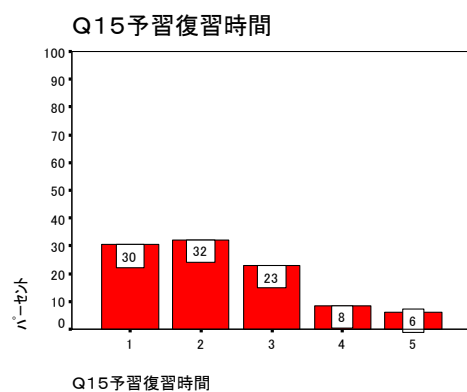
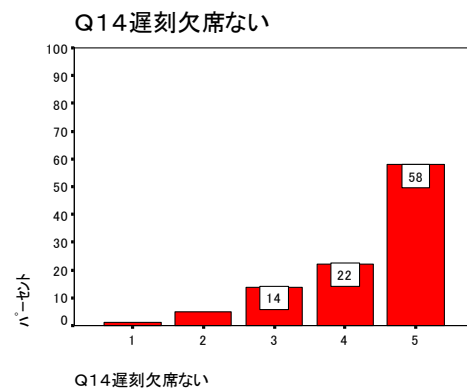
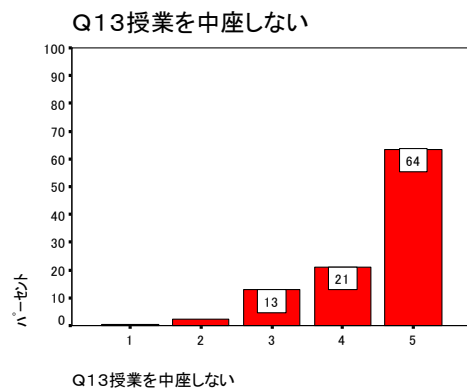
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	28	.8	.9	.9
	2	141	4.2	4.4	5.2
	3	510	15.2	15.8	21.0
	4	904	27.0	28.0	49.1
	5	1644	49.1	50.9	100.0
	合計	3227	96.5	100.0	
欠損値	0	61	1.8		
	システム欠損値	57	1.7		
	合計	118	3.5		
合計		3345	100.0		

Q17別の科目も受講したい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	96	2.9	3.0	3.0
	2	121	3.6	3.8	6.8
	3	386	11.5	12.0	18.8
	4	703	21.0	21.9	40.7
	5	1903	56.9	59.3	100.0
	合計	3209	95.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	136	4.1		
合計		3345	100.0		





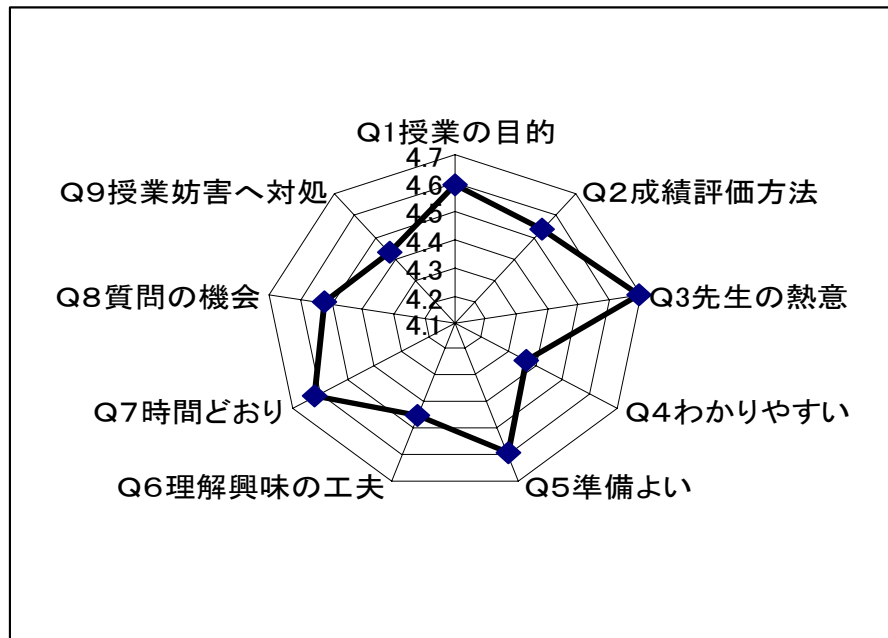


3 レーダーチャート（評価の領域バランス）

全17評価領域を、教員要因と学生要因に分け、それぞれの評価領域間のバランスを検討する。

3.1 教員要因の場合

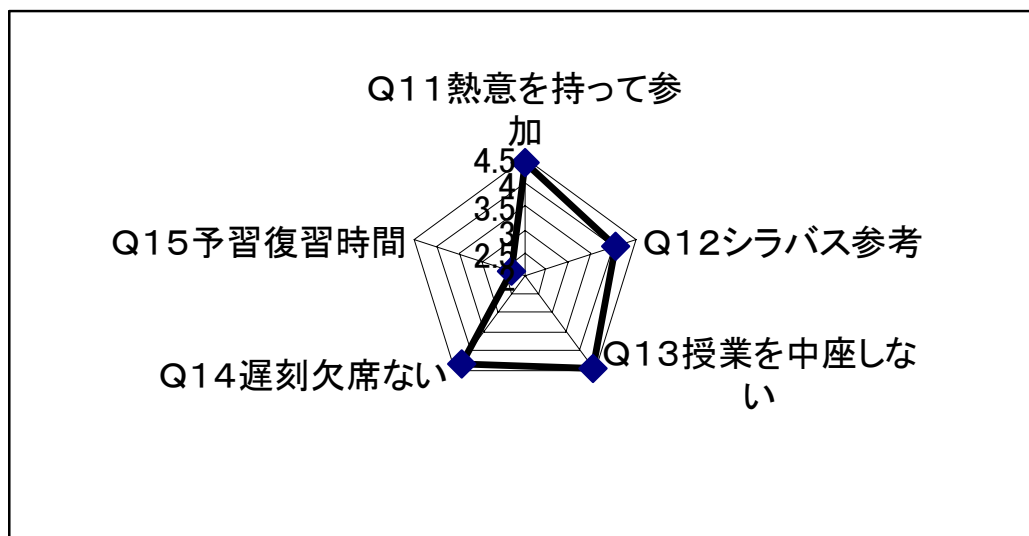
教員要因9領域の平均値をもとにレーダーチャートを作成した。（次図参照）



「4」点を基点に0.1で目盛ってある。図で見るとQ3「先生の熱意」がもっとも突出している。教員の授業へ注ぐ情熱が垣間見える。相対的に落ち込んでいるのは、Q4「わかりやすい」、Q6「理解興味工夫」、Q9「授業妨害への対処」などである。特にQ4「わかりやすい」の落ち込みが著しい。評定平均「4」を超えているので決して悪い評価ではないが、なお工夫の余地があるといえることであろう。おそらく「わかりやすい」と関連するであろうQ6「理解興味の工夫」も落ち込みを示していることから、「わかる授業」のサインが出ていると解すべきであろう。Q4とQ6の関連の指標としてクラマーのVを求めると $V = .526$ と（ $p = .000$ ）なり有意である。すなわち両者は関連している。学生たちは「わからせる」ことを期待している、と推測される。とはいえ、「わかりたい」意欲があるかは問われないといけなだろう。

3.2 学生要因の場合

学生要因5領域についてレーダーチャート化して示したのがつぎの図である。Q15「予習復習時間」でチャートが歪な形状になっている。この点が学生における重要課題であることになる。学生たちが、講義時間以外の学習をしていない状況をあからさまに露呈している。学部学科の課題、すなわち教員の課題は学生をどうにかして学習するように仕向けるか、ということである。予習復習なしで「授業」が成り立っていることになるが、これは常態であることは許されることではないだろう。



4 自由記述による評価（改善点を中心に）

自由記述による授業評価は、①授業の良い点、②改善してほしい点、③授業方法についての感想・意見・印象に残ったこと、④学長に聞いてほしいことの4つの設問から構成されている。この授業評価の目的は、第一義的には、授業の改善の資料を得ることである。ここでは、②の改善点を中心に検討を進める。

授業改善点について、①授業の進め方、授業の内容、③授業の運営方法等の多岐にわたって意見・要望が多く寄せられている。具体的には、つぎの5点を指摘する事ができる。分かりやすい授業を求めた意見が中心となっている。

- ①話が淡々と長く眠くなる。重要なことがわかるようにメリハリをつけてほしい。
- ②分かりにくい。説明が足りない。聞き取れない。
- ③先生の話にもっとまとまりをつけてほしいです。
- ④先生が説明して、生徒は聞くだけという、受け身だけの授業は改善して欲しいです。
- ⑤教科書の進め方がよくわからない。

今後、こうした意見・要望をもとに一層分かりやすい授業を進めていくためには、教員と学生は積極的に意思疎通を図り、授業の進め方に関し一層工夫を凝らしていくとともに、学生に対し、シラバス内容や講義の目的をよく知らせ、予習・復習に力をいれるよう指導して行くこと等が肝要であろう。

おわりに

2010年の本年度は、第3者による認証評価制度がスタートして7年目である。丁度認証評価1クールの最終年度である。本年度は本学も11月に認証評価を受けることになっている。

全般的に見ると、客観評価の17項目のうち、教員に関わる9項目で5段階評価の「4」以上の評定がなされている。本学教員にとって安堵すべき結果であろう。しかしこれは全般的な場合であり、各々の科目・教員・クラスで検討すれば様相は異なるものとなる。これは別のところで示す。

「4」以上の評定をされているものの、そのうち授業が「わかりやすい」内容であるかについては課題があるだろう。全体的評価では50%程度が「5」評価をしている。しかし、5%ほどが「1」ないし「2」の評定をしており、課題が残る。評価の凝集度を見ると標準偏差は教員に関わる9項目中最大の値を示しており、かなりのばらつきが認められる。すなわち、「わかりやすい」授業から「難しい」授業など広がりがある。

学生要因では、「予習復習」時間の短さが特筆される。この現象は今回に限らず毎回指摘されることであるが、「勉強する」大学生としてしっかりとした「学士力」を獲得できるような手立てが講じられなければならない。「シラバス」の利用について5割を超える学生がうまく利用していないようである。これはあまり「学習しない」現象と表裏一体でもある。

客観評価項目から明らかになった点は、「わかりやすさ」に問題のある授業、「勉強しない」学生ということになる。

自由記述の部分では「わかりやすい授業を求めた意見」が多く出されている。この課題に対しては、教員と学生は積極的に意思疎通を図り、授業の進め方に関し一層の工夫を行うとともに、学生に対し講義目的をよく知らせ、予習・復習に力を入れていくよう指導していくこと等が肝要となろう。

学生による授業評価について

調査期間： 前期 7 月
後期 1 月
調査対象： 全クラス

学生のみなさまへ：

この調査は、本学の教育活動を充実・改善するための基礎資料を得るために、全クラスについて実施されるものです。なお、この調査データはコンピュータにより統計処理され、担当教員に個々の生データを閲覧させることはありません。「成績」に影響を及ぼすようなことはありません。またプライバシー保護については十分留意します。

率直な（真摯な）評価をお願いします。

自己点検・評価委員会委員長

沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学学長

※ 記入終了後、指名された学生が回収します。 提出先：教務課

PART I 設問 1～17 について、評価欄のあてはまる数字（5～1）に○をつけてください。

評価の基準： 5 非常にそう思う 4 そう思う 3 どちらとも言えない 2 そう思わない 1 全くそうは思わない

評 価 欄

1. 先生は、学期の初めに授業の目的及びこの授業での学生のなすべきことについて明確に説明しました。	5	4	3	2	1							
2. 先生は、宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました。	5	4	3	2	1							
3. 先生は、授業について熱意がありました。	5	4	3	2	1							
4. 先生の授業は、とてもわかりやすかった。	5	4	3	2	1							
5. 先生の授業の準備はよくできていました。	5	4	3	2	1							
6. 先生は、学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました。	5	4	3	2	1							
7. 先生の授業は、時間どおりに始まり、時間どおり終わりました。	5	4	3	2	1							
8. 授業でわからないことを質問できる機会や工夫がありました。	5	4	3	2	1							
9. 先生は、授業を乱す行為（私語・携帯電話（メールを含む）・居眠り・中座等）に対して適切に対応していました。	5	4	3	2	1							
10. 私は、この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するよう薦めたい。	5	4	3	2	1							
11. 私は、この授業に熱意をもって取り組みました。	5	4	3	2	1							
12. 私は、授業の学習にあたり、シラバス（講義要項・学習計画）を参考にしました。	5	4	3	2	1							
13. 私は、授業中、私語や携帯電話（メール等）・中座など、授業を乱すような行為はしませんでした。	5	4	3	2	1							
14. 私は、この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした。	5	4	3	2	1							
15. 私は、この授業のために週当たりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました。 ※当てはまる数字に○をつける。	5 (3 時間以上) 4 (2 時間ぐらい) 3 (1 時間ぐらい) 2 (30 分ぐらい) 1 (ほとんどしなかった)											
16. この授業を全体的に評価してください。 ※当てはまる数字に○をつける。	5	秀	4	優	3	良	2	可	1	不可	0	わからない
17. 私は、この先生の別の科目も受講したいと思います。	5	4	3	2	1							

科 目 名	クラス名 ()			
学籍番号*				男
学 年	1	2	3	4
所 属 学 科	1 英語科 2 保育科 3 英語コミュニケーション学科 4 科目等履修生			
入 試 区 分	1 一般入試	2 推薦入試	3 A0 入試	

* (学籍番号) できるだけ記入してください。

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

(裏面に記入)

- この授業のよい点
- この授業に改善してほしい点
- この科目や担当者の授業方法について、感想・意見・印象に残ったこと。
- 学長へ（聞いてほしいこと）

(裏のページへ進んでください⇒)

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

※この記述は統計的に処理され、この回答用紙を担当教師が直接に閲覧することはありません。

1. この授業のよい点																			
2. この授業に改善してほしい点																			
3. この科目や担当者の授業法について、感想・意見・印象に残ったこと。																			
4. 学長へ（聞いてほしいこと）																			